



「ひなたの学び」の実現に向けて

「ひなたの学びフェス」が2月10日(火)に開催されます。子どもの学び研究指定校の研究成果を共有し、各学校における学びに向かう力を育む「ひなたの学び」の実現につなげていくことを目的とした研修会です。

中部教育事務所管内からは、研究指定校の国富町立木脇中学校・日南市立油津中学校・新富町立富田中学校の3校がこれまでの研究成果を発表します。国富町も生徒指導に関する取組を発表します。(詳細は裏面をご覧ください)

各学校におかれましては、日頃より授業改善に向けた取組を進めていることと思いますが、研究指定校の研究成果やを参考に、今後の取組への参考にさせていただけるとありがたいです。

研究発表等の資料は、後日、義務教育課のホームページに掲載する予定ですので、参加できなかった皆様も研究指定校等の取組を確認していただければと思います。



デジタルドリルの活用

先月、小学校4学年、中学校1学年を対象に、CBT方式(コンピューターで解答の入力を行う方式)で「みやざき小中学校学習状況調査」が実施されました。

児童生徒のタブレットにも、「ミライシード」などのアプリがダウンロードされ、先生方も授業や家庭学習で活用されていることと思います。

中部教育事務所管内2校(潮見小・通山小)におけるデジタルドリルの活用事例を義務教育課ポータルサイトに掲載しております。デジタルドリルの積極的な活用に向けての参考にしてください。

まずは、デジタルドリルを使ってみるというところからスタートしてみたいかがでしょうか。



義務教育課ポータルサイト
<https://sites.google.com/g.miyazaki-c.ed.jp/cbt/>



小学校新1年生の入学に向けて ～「架け橋プログラム」を御存じですか?～

いよいよ1月がスタートしました。小学校では新1年生の入学に向けて、準備を進めていることと思います。「架け橋プログラム」を御存じでしょうか。「架け橋プログラム」とおして幼保小が連携し、幼児教育からの円滑な接続を図りませんか。

架け橋プログラムとは

「幼保小の架け橋プログラム」は、子供に関わる大人が立場を越えて連携し、**架け橋期(義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間)**にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基盤を育むことを目指すものです。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿として10の姿が挙げられています。

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

似た言葉に、「スタートカリキュラム」があります。

「スタートカリキュラム」とは、小学校へ入学した子供が、幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムです。

【参考】国立政策教育研究所 スタートカリキュラムスタートブック

【参考】文部科学省 幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら、幼保小で対話しましょう。小学校の「スタートカリキュラム」づくりにもつながります。

文部科学省HP「幼保小の架け橋プログラム」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm



問合せ先：中部教育事務所
(担当：濱砂)

TEL (0985) 44-3322

代表アドレス chubu-kyoiku@pref.miyazaki.lg.jp

中部教育事務所は、「ひなたの学び」を推進しています。

児童生徒の「居場所づくり」「絆づくり」～学校が楽しい！みんなと一緒に学びたい！～

国富町では、令和4年度より、国事業「子どもの発達を支える生徒指導に関する調査研究事業」（令和4年度は「魅力ある学校づくり調査研究事業」）を委託され、「キャリア教育と関連した生徒指導の推進による魅力ある学校づくり」というテーマのもと、取組を進めてきました。

キーワード **Q** ▶ **生徒指導の実践上の4つの視点** 「学習指導と生徒指導の一体化」 学校の魅力の向上

国富町では、**生徒指導の実践上の4つの視点**（自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の設定、安全・安心な風土の醸成）の中から、下の重点項目を中学校区で共通して設定し、小・中9年間での切れ目のない継続した取組を実施しています。



- | | | | |
|---|--|--|--|
| <p>自己存在感の感受 ＜重点項目（一部）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとう週間の設定 ・児童生徒の言葉を授業で積極的に活用 | <p>共感的な人間関係の育成 ＜重点項目（一部）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え合いや学び合いの時間の設定 ・小中合同あいさつ運動 | <p>自己決定の場の設定 ＜重点項目（一部）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業において自己選択、自己決定の場を設定 | <p>安全・安心な風土の醸成 ＜重点項目（一部）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的な声かけを行うことによる一人一人を認め合う雰囲気づくり |
|---|--|--|--|

また、年に3回の意識調査を実施し、分析、取組の再計画を行うことで、PDCAサイクルでより良い学校づくりを目指しています。

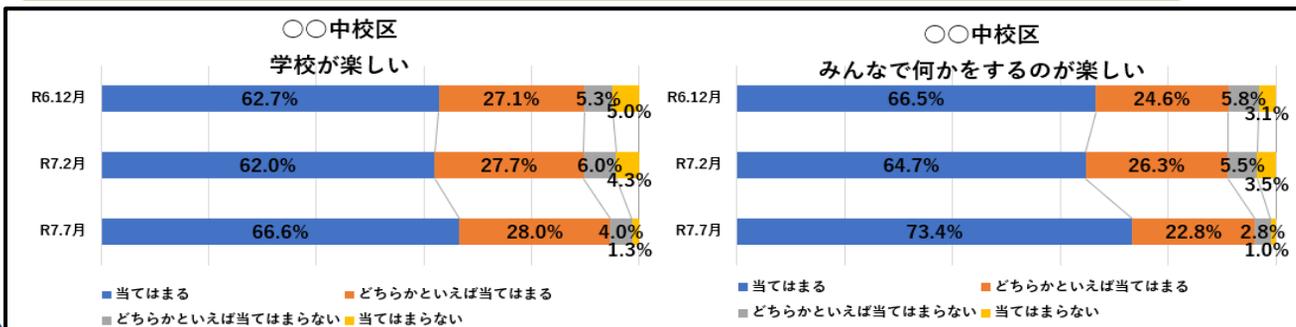
下のグラフは、国富町内のある中学校区で行った意識調査の経年変化を表したものになります。昨年度と今年度を比べると、肯定的な数値が伸びています。

先生方の声を聞いてみますと、「教師と児童生徒との関係性が変わった！教師が子どもの声にこれまで以上に耳を傾けるようになり、教師と児童生徒の対話が増えるなど、とても雰囲気の良い学校になってきた。」「児童生徒が自ら行動するようになった。」など、「子どもを主語」にした取組の成果が出ています。

これらの取組については、義務教育課主催「ひなたフェス（2月10日）」でも発表される予定です。

ポイント **Q**

特別な取組ではなく、日常の学校生活、授業の中で、意識して行うこと（児童生徒も教師も）が大切



◆もしよろしければこちらのQRコードを読み取っていただき、「1月号」の御感想をおきかせください。



問合せ先：中部教育事務所 Tel (0985) 44-3322
(担当：濱砂) 代表アドレス chubu-kyoiku@pref.miyazaki.lg.jp

中部教育事務所は、「ひなたの学び」を推進しています。